



モルックの練習をする「鎌倉モルックの会」所属の高瀬颯介さん＝7月26日、神奈川県鎌倉市

フィンランド発祥の新スポーツ

モルックが熱い

モルック フィンランドに伝わる遊びを基に1996年に開発されたスポーツ。1～12の数字が振られた木製のピンを、3～4m離れた位置からモルックと呼ばれる木の棒を投げて倒す。倒したのが1本ならそのピンの数字が、複数本なら倒れた本数が得点に加算され、ちょうど50点を出した方が勝ち。50点を1点でも超えた場合は25点に戻り、ゲームを継続する。3回連続でピンを倒せなかったらその時点で負けとなる。世界大会は1チーム4人で行うのが基本。世界の競技人口は約3万人といわれている。

木の棒を投げ、カーリングとボウリング、ダーツを組み合わせたような北欧フィンランド発祥の新スポーツ「モルック」が最近関心を集めている。お笑いコンビ「さらば青春の光」の森田哲矢さんが日本代表として昨年世界大会に出場したことで話題を呼び、日本モルック協会によると愛好者は1年間で約5倍の5千人に急増。老若男女が楽しんで頭脳戦の要素も多く、介護やリハビリにも活用を期待されている。

まるでカーリング×ボウリング×ダーツ

愛好者1年で5倍



激しい動きはなく、倒したピンの本数やピンに書かれた数字に応じて入る得点で争う対戦型ゲーム。基本的に屋外で行うが、新型コロナウイルスの影響による在宅生活でも屋内で練習でき、シンプルなルールながら奥が深いのも人気の理由だ。趣味を探していた森田さんが芸人仲間のサンドウィッチマン、富沢たけしさんの紹介で競技に出合ったのは昨年春。練習会に参加し、フランスで世界大会があることを知った。現地までの旅費を負担できたらみんな日本代表です」と聞くと

「じゃあ行きます」。モルックを始めて数時間後には「日本代表」になるなどアイデアは尽きない。日本協会によると、全国36カ所で開催が実施され、初心者も参加できるハードルの低さが特徴だという。神奈川県「鎌倉モルックの会」では男女15人ほどが参加する。高瀬颯介さんは「テレビ番組を見て、友人を誘って練習に通い始めた」と3年前に病気で左半身不随になり、リハビリ中の石井健一さんは「性別や年齢に関係なくボテシヤルを生かせる」と最近では体の調子に合わせて投げフォームなどを見直し、大会に出場している。

「子ども、お年寄り、障害者も一緒に楽しめる。モルックは医師で日本協会会長の八ツ賢秀一さんが赴任先のフィンランドで出会い、9年前に国際交流を旨として同協会を設立した。「しゃがんでピンを立て直す動作だけでも意外と良い運動になる。いろいろな形で楽しんでくれれば」と普及拡大や幅広い分野での活用を願っている。



このスポーツは、「モルック」を「モルッカーリ」の場所から投げ、「スキttl」を倒して1投ごとの得点の合計で競うゲームです。

合計得点が、ぴったり50点になったらゲームを終了します。この時の得点が持ち点となり、その累計得点で勝敗を決めます。

